

本人本位のケアを共にすすめるために

ケアセンターりんどうの取り組み

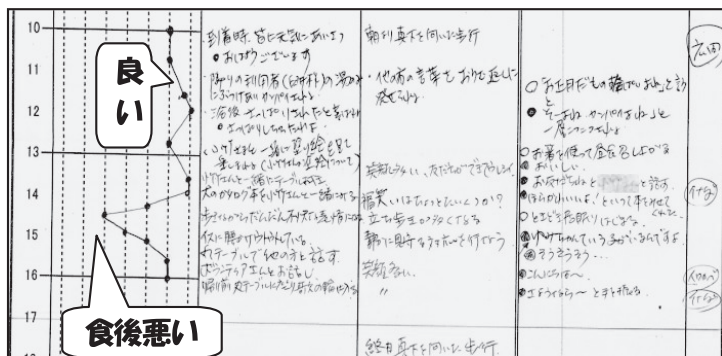
利用者本位を漠然とした目標で終わらせるのではなく、支援しているその人にとって何が大切かを、関係者で共有していくためには、どのような取り組みが必要なのでしょう。今号は、鎌倉市にある(福)鎌倉静養館「ケアセンターりんどう」(以下、「りんどう」)の稲田秀樹さんにお話を伺いました。

りんどうは、平成四年に設立された、主に認知症のある方を対象とする、定員二十名のデイサービスです。ケアをどうしてよいか悩んだときなど、どのようにケアすることが本人本位となるのかを考えるために、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用してきました。

例えば、介護拒否や暴言、暴力、昼夜逆転のある方の場合、下図のシートを活用しました。シートに

は、私(本人)の気分の変化と、その時の具体的な様子、その様子に影響を与えていると考えられる事、私(本人)の願いや支援してほしいことを記録します。ここでは、「本人の言ったこと」、「家族の言ったこと」、「ケア者が気付いたこと」を区別し、たとえば言葉になつていなくても、単語でも方言でも本人の言ったことは、そのまま記載します。

また、ポストイット(付せん)をさまざまな場所に置いて、気付いたことをすぐメモできるようにしています。取り組みを続ける中で、本人の状態が悪くなるのは、決まって食事をした後だということが分かりました。シートの情報を主治医と共有することで、薬の処方も変わりました。職員たちが本人の言葉を引き出す努力を粘り強く続け、ケアのヒントやアイデアを共有することで、本人の状態



センター方式D-4によるシート。●で記載されたのは私(本人)の言葉。家族や主治医と情報を共有し、その人らしいあり方を支えるためにどうしたら良いかを一緒に考えていく。センター方式は、認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室HP「いつでも」ネット <http://www.itsu-doko.net/> を参照

が落ち着き、笑顔が増え、ほかの利用者との交流も増えていきました。

「症状の原因や背景を探る中で、何かがある状況をつくっていると考えることが大切です。そして本人の事をもっと知ろう、もっと本人の思いに沿ったケアをしよう」という稲田さんの言葉は、認知症の方へのケアに限らない、とても大切な姿勢と感じました。

(企画調整・情報提供担当)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 **岡本誠一郎**

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

神奈川県福祉研究会

(税務・会計の専門家グループ)

- 理事 伊藤 正孝 ☎045-412-2110
- 同 桑江 郁男 ☎045-402-4433
- 同 辻村 祥造 ☎045-311-5162
- 同 西迫 一郎 ☎046-221-1328
- 同 林 雄一郎 ☎0466-26-3351
- 代表理事 八木 時雄 ☎042-773-9266

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI ぎかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700 ☎ FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1766 FAX045(780)1598
<http://www.kki.co.jp/>